

りしり富士「小中一貫教育」全体構想図

いっしょに登ろう同じ山へ！

めざす子ども像「自然を愛する豊かな心と高い知性を持ち、未来を生き抜くたくましい子ども」

基本方針

- 1 町全体での「めざす子ども像」の共有
- 2 中学校卒業までを見通した一貫した指導
- 3 子ども同士、教職員間の交流・連携・協働
- 4 コミュニティ・スクールの仕組みを活かした豊かな環境づくり

利尻富士町の豊かなつながり

◆学びをつなぐ ◆未来をつなぐ ◆人・地域をつなぐ

発達段階や連続性を踏まえた目標設定と共有

【未来をつなぐ】 【人をつなぐ】

人間性・社会性と

自己肯定感の育成

◆9年間で一貫性のあるキャリア教育の確立と実施

◆「利尻富士スタンダード」の確立と、家庭と一体となった生活習慣の指導

◆児童会・生徒会合同による活動の計画と実施

◆学年・発達段階に応じた道德教育の実施と充実

9年間連続した「確かな学び」の創造
(一貫した指導内容・指導方法・指導形態)

【学びをつなぐ】

教育課程における

一貫性の確立

◆学習内容の系統性、重点化を図った9年間を見通した教育課程の編成・実施

◆乗り入れ授業など学習指導体制の工夫

◆学習方法の定着や家庭学習の習慣化など、小中学校の良さを生かした授業改革や一貫した指導

◆小中学校間での創意工夫による取組(キャリア教育、外国語教育、プログラミング教育など)

小・中学校の教育観の連携・協働【人・地域をつなぐ】

- ◆9年間を通して児童生徒を育てるという教職員の意識改革 ◆異なる校種の良さをいかした指導工夫や授業改革
- ◆相互の授業交流、合同研修会による自己研鑽と指導力の向上

コミュニティ・スクールを活かした地域との連携・協働【人・地域をつなぐ】

- ◆地域の特色を生かした教育支援、体験活動など「ふるさと教育」の充実 ◆共通項目による評価の推進と共有
- ◆地域教育資源を生かした教育活動の推進 ◆地域行事への積極的参加・参画と地域貢献活動の推進

○利尻富士町学校管理規則の一部改正について

1. 改正の目的

令和5年度より、鴛泊地区では、鴛泊小学校・鴛泊中学校（施設隣接型）、鬼脇地区では、利尻小学校・鬼脇中学校（施設一体型）において、小中一貫教育が導入されることによる。

2. おもな改正点について

・学期制について（第19条関係）

【改正前】3学期制のみ規定。

【改正後】2学期制（前期・後期）：令和5年度より全小中学校で採用。

＊令和5年度の前期終業（9月29日）、後期終業（3月22日）

・教育課程について（第20条関係）

小中一貫教育を実施するにあたっては、小学校における教育と中学校における教育を一貫して施すことができる、と学校教育法施行規則第79条の9第1項*に規定されていることから、各地区において、小学校は「中学校併設型小学校」、中学校は「小学校併設型中学校」と定め、一貫した教育課程を編成しようとするときは、互いの校長間で協議を行なうよう規定する。

鴛泊地区	利尻富士町立鴛泊小学校	利尻富士町立鴛泊中学校
鬼脇地区	利尻富士町立利尻小学校	利尻富士町立鬼脇中学校

＊学校教育法施行規則抜粋

第二節 中学校併設型小学校及び小学校併設型中学校

第七十九条の九 同一の設置者が設置する小学校（中学校連携型小学校を除く。）及び中学校（併設型中学校、小学校連携型中学校及び連携型中学校を除く。）においては、義務教育学校に準じて、小学校における教育と中学校における教育を一貫して施すことができる。

・休業日について（第25条関係）

【改正前】夏季休業・冬季休業をそれぞれ25日以内：学校間で差があった。

【改正後】上記をあわせて50日以内とする：全校で統一される。

＊令和5年度の夏季休業（7月25日～8月17日）、冬季休業（12月23日～1月17日）

・臨時休業について（第26条関係）

【改正前】校長が、運営上やむを得ないと認めるときのみ規定。

【改正後】上記に、気象等に関する特別警報が発表されたとき等、非常災害その他緊急の必要があると認めるとき、を加える。

[道内の小中一貫教育設置・導入状況(R4.7現在)]

・義務教育学校:18市町村19校

・小中一貫型小中学校:24市町村43中学校区(中43校、小56校)

〇令和5年度 りしり富士小中一貫教育の具体的な取組内容について

1. 鷺泊地区(施設隣接型:鷺泊小学校・鷺泊中学校)

①鷺泊地区のめざす子ども像「ふるさとを愛し 未来を切り拓く 自立した子ども」の設定

②9年間を見通した在り方と教育課程

I期(小1～4):基礎・基本の定着、生活・学習習慣の定着

II期(小5～中1):基礎・基本の徹底、中1への丁寧なつなぎ

III期(中2～中3):応用・探究への進化、「責任」と「運営力」

③小中の垣根を越えた授業体制(乗り入れ授業)の充実

数学教員が小学校に出向き、算数の授業や補助を行う(継続)。

小学校高学年が、中学校へ移動し、英語教員やALTなどから英語授業を受ける。

④日課の調整

乗り入れしやすい環境づくり。英語授業を午後に行なうことを想定し、昼休みに移動時間を確保する。

⑤系統的な「総合的な学習の時間」

小中で交流し、学習内容が被らないよう系統的に設定。修学旅行は、小学校で札幌方面、中学校で関東方面に設定。

⑥行事の交流

運動会の同日開催(午前:小学校、午後:中学校)。小学生は中学生が考えた競技に参加し、中学生は小学校の運営補助を行う。

⑦学習規律や生活のきまりの統一・整理

小学校で身に付けた力を中学校へスムーズに移行する。

⑧小中合同授業研究

一貫した教育課程のもと、合同で授業研究・交流を行なう。

2. 鬼脇地区(施設一体型:利尻小学校・鬼脇中学校)

①鬼脇地区のめざす子ども像「確かな学力を身につけ自ら解決できる子 心豊かに思いやりの心で互いに認め合う子 心身を鍛え、困難に打ち克つ粘り強い子」の設定

②9年間の学びをつなぐステージと教科カリキュラム

小1～小4期:学びの基礎をつくる(学習規律、規範意識、生活習慣)

小5～中1期:学びを広げる(思考力、判断力、学習習慣)

中2～中3期:学びを深める(課題追求、実践力、進路設定)

③中学校と小学校の授業体制の充実

乗り入れ授業の充実(算数、音楽、英語)

小中授業交流週間、性教育週間等の設定

日課表の時間差の部分的解消

④児童・生徒の組織、活動

児童生徒会組織・体制の統合

清掃、委員会等の小中縦割り活動

⑤運動会、文化祭、全校集会、挨拶週間等の合同実施

⑥小中各部会(教員)の連携、協働、研修

小中一貫教育視察 報告書

I 新篠津村

I-1 新篠津小学校（児童126名）

視察日程：令和4年10月6日（木）9：00～

対応職員：田中亮一校長、河内一恵教頭、櫻田大介係長（新篠津村教委）

視察内容：

①授業風景・校内視察

各学年20名前後、タブレット：Ipad。

各授業に小中一貫教育推進員2名が入る（校長経験者を村で雇用、会計年度任用職員、全3名（うち2名が小学校配属））。

②資料説明（田中校長） ＊資料：新篠津村小中一貫教育、学校要覧

一貫教育は2年目。小中の行事などをまとめた教育カレンダーを各戸配付。算数・数学検定や体力テストを合同実施。美術授業などの乗り入れ、CSを小中一貫で組織。



授業風景（6年生）



資料説明

I-2 新篠津中学校（生徒59名）

視察日程：令和4年10月6日（木）9：40～

対応職員：吉本浩志校長、小川琢治教頭、櫻田大介係長（新篠津村教委）

視察内容：

①授業風景・校内視察

各学年20名前後、タブレット：Ipad。

小中一貫教育推進員は1名で、授業での補助や放課後の補習、プリント配付、グラウンド整備の手伝い、検定の運営なども担う。英語のグループ授業では、専科やALT（インタラック）のほか、推進員や別

教科担も授業に入っていた。授業がない先生がほかの授業を見たり参加するのが普通となっている。進路先は、江別や札幌、月形、岩見沢方面。



玄関ロビーモニター



授業風景（英語）

②資料説明（吉本校長） ＊資料：新篠津村小中一貫教育説明資料、補足資料、系統表

平成30年より検討会、準備会を設立し、令和2年度から実施だったが、コロナによる学校閉鎖。コロナ禍であっても3年度からの完全実施に向けての準備を進めた。目指す3つの目的を掲げ、各部会の取組としては、小中お互いの交流や認識するためのロードマップの作成や小6の定期テスト体験などを実施。一貫教育推進員の役割を明確化し、村内への発信を行なった。一貫教育推進の成果として、中1ギャップの解消や双方の学校についての理解の深化がある。最も大事な課題としては教職員間の良好な関係の維持にある。

③協議・交流

- ・小中一貫教育の導入に際しては、校長主導で進めた。中核を担う先生の機運ややる気は高く、乗り入れをダイナミックにやっていたこともあり抵抗はそれほどなかった。
- ・一貫教育推進員の役割は、数学等の授業補助、放課後学習の担い手、授業への乗り入れ、全体的な職員のサポート、各種検定の運営など様々。推進員の協議会があり、指導法や情報交流している。学校としては非常に助かっている。
- ・A I 教材の導入について、利尻富士町ではキュビナを採用。
- ・新篠津村では、道新のデジタル教材「まな bell」の導入を検討中（アカウント：先生用1、生徒用1（100接続）、増設可）。
- ・資料やデータ等は、必要であれば大いに活用していたいて構わない。



上) 校舎中央吹き抜け

下) 資料説明、協議

Ⅱ 北広島市

Ⅱ－１ 大曲小学校（児童４７２名）

視察日程：令和４年１０月６日（木）１３：１５～

対応職員：工藤雅人校長、大山敏広教頭、比良彰男指導主事、阿部主幹教諭

視察内容：

①資料説明 ＊資料：北広島市の小中一貫教育、補足資料、大曲中学校学校運営協議会（大曲プロジェクト）について、学園制加配実施計画、きたひろ夢ノート、全国サミット冊子

①－１ 北広島市の小中一貫教育について（比良指導主事）

平成３０年より市内６中学校区でスタート。各区でのめざす子ども像の共有を図る。大志学（キャリア教育）の推進と充実（きたひろ夢ノートの活用）。教職員・保護者ともに小中一貫教育に期待する一番は、中１ギャップの解消にある。先生方の意識の変容のきっかけとして、当市が全国サミットの開催地となり、多くの授業公開を経験したことにある。

①－２ 大曲中学校区学校運営協議会について（工藤校長）

大曲地区３校（大曲小、大曲東小、大曲中）による学校運営協議会を大曲プロジェクトと通称し、目指す子ども像を共有し、地域とともにある学校づくりを働きかける。元々、学校を支援するという風土が強い地域。子どもたちに心がけてほしいこと、も協議会の会長名で周知。各部会に分けて活動計画を作成。小中一貫の取組との連携をさらに目指していきたい。

①－３ 大曲中学校区学園制加配について（工藤校長）

小学校高学年の教科担任制を導入。大曲中の加配２名（理科、英語）は、小学校２校で指導。令和４～
６年度の３年間の実施。小小連携（大曲小、大曲東小）のケースとして、理科授業を大曲小（対面）と大曲東小（web）とでつなぐ取組。

②授業風景・校内視察

６年２組の理科授業（学園制加配の中山教諭）を参観。

③協議・交流

- ・中学校から小学校へ乗り入れている理科の評価について、評価方法や差異が生じないか、については、若干評価が高い傾向にあるが概ね差はない。中学校の先生でありながら小学校で授業を持つことへの抵抗感は、初任のためない様子。先生も人柄が大事。外国語については、退職されたベテランが担っており、培ってきた指導力がある。
- ・小学校から中学校への乗り入れとして、スキーマの指導資格を持つ先生が中学校に指導に行くケースがある。中学校で行き渋りのある生徒に対し、小学校の元担任などの先生が中学校へ行ける体制づくりがあるとよい。
- ・小中一貫教育導入に対する教員との温度差については、大曲地区は元々素地があったが、市内的には全国サミットが起点となり解消された。主幹教諭や小中一貫推進教諭の声が強く、進められた。

・当初は、各校の教務同士で協議して、できることから始めた。お互いやっていることの日程を合わせるとか、フォーマットを一緒にするとか、何年かかけて今のかたちになった。北広島と新篠津は根幹は一緒に、新篠津中の吉本校長は、大曲中の元教頭で、小中一貫の土台を築いた。

Ⅱ－２ 学校視察後、北広島市役所庁舎にて、吉田孝志教育長を表敬



資料説明



授業風景（6年2組）

Ⅲ 北海道大学大学院教育学研究院にて、守屋淳教授と懇談

訪問日程：令和4年10月7日（金）10：30～

内容：学びの共同体は、一人ひとりが取りこぼしのないよう、グループそれぞれのペースで学習するもの。全体の底上げになり、結果的には全国学テでも点数が上がる傾向（それが主目的ではないが）。逆に、宗谷教育局で進めている同一ペースでの授業とは異なる。

鴛小では、学びの共同体の理念に基づき、将来のまちづくり・人づくりにつなげるため、グループ学習を行なっている。独自であれば、守屋先生に来ていただきアドバイスを請うことができる。

札幌市有明小学校の授業例（映像）：グループで発表し進行。お互い困っていることを共有し、わからないことを納得するまで聞く。

浜頓別町では、教育長の意向強く実践、浜頓別中では進んでいるが、小学校ではうまくいってないようだ。以前の校長が進めていたが、リーダーシップが弱かった。中学校の場合は、教科担であり肯定的な先生が採り入れていくことで生徒の反応が良ければ、そうではない先生方に対し生徒側からの要求が及ぶのでは。逆に、小学校の場合、担任制なので先生の方針に従ってしまう傾向にある。進めるうえで校長のリーダーシップは、大事だろう。

板書を写すだけでは、子どもは身につかない。子ども同士の発表を通じて考える力を養えるし、さらにそれを写すことで力がつく。

北海道学びのネットワーク研究会があり、10月8日に中頓別町、12月10日に北大で開催さ



れるので、参加されるのを勧めたい。湧別町の事例は、教育委員会からの発信で進められている。

Ⅳ 視察のまとめと展望

小中一貫教育の先進地である新篠津村と北広島市は、学校や地域の規模は異なれど、北広島市で積極的に進められた取組を基礎として（吉本校長が、前任地である北広島市において小中一貫教育推進に携わっていた経緯からも）波及効果を生んでいる。なかでも新篠津村においては独自の小中一貫教育推進員の配置、北広島市においては令和３年度に当市で開催された全国サミットを契機とした教員の意識変容など、先進地ならではの取組や教育に対する熱を実感し、今後の体制づくりのヒントなどを得ることができた。

視察の成果としては今年度、利尻富士町において小中一貫教育を推進・浸透させるために、各校教員等を対象とした研修会を実施する計画があるので、吉本校長や比良指導主事のご助力を得て進めていきたい。

令和４年１０月１４日

視察参加者

吉田秀昭（利尻富士町教育委員会教育長）

本間 到（利尻小学校・鬼脇中学校校長）

森河 真（鴛泊中学校校長）

米田達雄（鴛泊小学校校長）

山谷文人（利尻富士町教育委員会次長）